

ありがとう

青少年科学館 図書館本館

～半世紀を超える歩みを振り返る～

青少年科学館、図書館本館の両館は、この3月末で閉館を迎えます。現在、12月オープン予定の新たな科学館・図書館を、両館の裏側で整備中ですが、ともに昭和30年代に開設し、室蘭の中でも長い歴史を持ち、多くの人にご利用いただいた両施設の歩みを振り返ります。



開設までの道のり

まちとともに歩んできた図書館

市より古くからの歩みが図書館にはあります。大正半ば、区立公会堂に設けられた図書室がその端緒。これを元に、室蘭区教育会が現在の山手町で図書館を開きました。大正10年6月26日のことで、開設当初の蔵書数は1千511冊でした。

大正11年に市制が施行され、翌年4月から市が運営し、今に至っています。大正末に現在の市役所そばに移設し、昭和10年には蔵書も4千890冊にまで充実。夜間開館や、郷土資料室も設けられました。転機は戦時中の昭和16年2月。市役所焼失により閉館を余儀なくされ、移転再開するも、戦局の悪化などに伴い来館者は減少。昭和19年、軍の接収により休館し、翌年には蔵書類を本輪西国民学校などに分散疎開させました。

室蘭ならではの科学館

一方、子どもたちの「科学する心を育て」施設、青少年科学館は、昭和38年に開設。図書館がおおよそ各地にあるのに対し、科学館は道内でも稀な存在。明治以来の製造業の歩みを持つ室蘭において、科学技術の振興発展を図る科学館こそ、「ものづくりのまち」を象徴する施設といえるのです。

科学館の担当部署は、昭和36年半ばに図書館本館内に置かれました。同時期に



大正10年に開設した最初の図書館

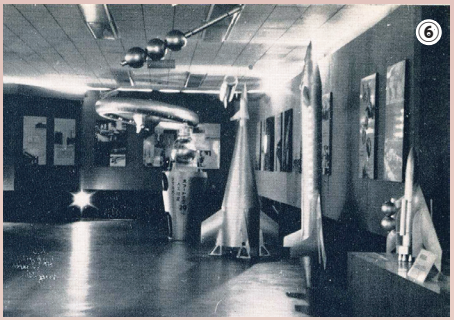
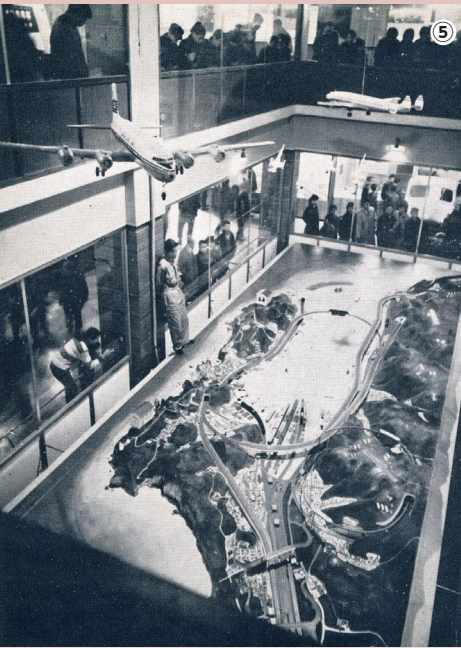
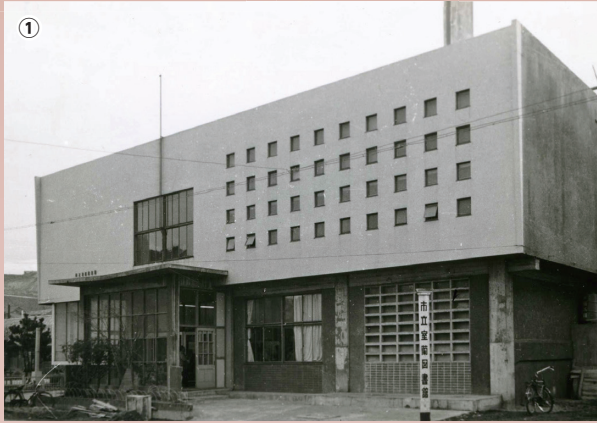
は、北海道からの支援で、道内複数箇所
で科学館が造られました。地域の協力を
受け、道内の青少年科学館一番館とし
ていち早く開設に至ったのが、ここ室蘭
だったので。

両館の幕開け

戦後から図書館本館開設まで

戦後、昭和23年1月に常盤町で再開した図書館ですが、昭和26年に市立病院焼失を受け休館。同年中に幸町で移転再開するも、大変狭隘せまひちでした。日本製鋼所室蘭製作所からの1千万円の寄付を元に、昭和33年に新築整備したのが現在の図書館本館です。11月19日の開館でした。

館内には、書籍の配架・閲覧スペースのほか、郷土資料や地元産業の展示も設けられました。アイヌ文様の陶板作品が1階に設置され、多くの利用者で賑わいました。



④昭和38年開館当時の科学館。開館を待つ人たちが列をなし、裏側には武揚小学校の校舎が見えます
 ⑤開館当時、1階に展示していた未来の室蘭の交通を示すパノラマ
 ⑥2階には、ロケットや人工衛星などが展示されていました

①昭和33年新築当時の図書館本館(2階建て)
 ②昭和半ばごろの閲覧室。利用率の高さで知られました
 ③図書館1階に今もある陶板作品。陶業界の第一人者、小森忍さんの作品です

期待に満ちた科学館開設

昭和38年3月末日の開館式典を経て、4月1日に科学館はオープンを迎えました。当時、開館を待つ人たちの、まさに長蛇の列が記録されています。館内には、未来の室蘭の交通を示す大パノラマが据えられ、ロケットや人工衛星、車など、最先端の科学技術を示す展示物が並んでいました。また、プラネタリウムや熱帯植物を育てる温室も設けられました。

両館の歩み

図書館本館の62年間

図書館では、図書の見学・貸し出し、レファレンスといったサービスに加え、関係団体や個人のご協力をいただき、読み聞かせや映画上映などを行ってきました。また、郷土資料の収集や保管、遺跡の発掘調査なども

両館が造られた頃の室蘭

両館が整備された昭和30年代は、戦後復興を経た高度経済成長期。図書館本館が開館した昭和33年で人口約14.5万人、5年後の科学館開館時で17万人弱と、市の人口は年々増加していました。

既に統合された小中学校の校舎の多くや、市民会館(旧館)、文化センターなどが整備されたのもこの時期。上下水道や舗装道路は順次延伸され、蘭北台地には空港を設ける計画もありました。

図書館が長く担ってきました。その後、郷土資料の収蔵や展示は、昭和55年に開館した民俗資料館に、文学関係は、港の文学館(昭和63年開設当初は、市立室蘭図書館附属文学資料館)に、それぞれ引き継ぎ現在に至っています。自動車文庫「ひまわり号」の運行開始は、昭和37年。既に本輪西、輪西(後に白鳥台も)に分室はありましたが、市内を巡回し、本に親しむ機会を広めてきました。なお、今の車両は平成27年にリニューアルしたものです。ほぼ現在の姿になったのは昭和46年。3階建てに増築し、科学館にあった児童図書も集約しました。平成11年、山下敏元館長の発案で、人生の節目や記念に寄贈された貴重図書「ふくろう文庫」が始まりました。蔵書数は現在約6千800冊。ボランティアによるミニ特別展や講演会などを実施しています。

科学館の57年間

科学館で多くの人の記憶にあるのは、やはりロボットでしょう。「ハイイ、カンチャンです」と呼び掛ける現在のカンチャンは、開館当初の復刻版。ほかにも何体ものロボットや展示物が、科学館職員によって自作され、親しまれてきました。

開館以来、関係団体の協力もいただき、小中学生対象の科学クラブをはじめ、週末のスポットサイエンスや親子でのファミリーサイエンス、市民園芸相談やさつき展・盆栽展なども実施。

昭和50年からはSLを屋外に展示。大きく力強い車体は、長く子どもたちの憧れでした。

平成17年から「NPO法人科学とものづくり教育研究会かもけん」が運営を担い、開館から57年間の来館者は延べ108万人に上ります。



昭和50年、科学館での展示のためSLが運ばれてきました。この車両は、令和元年8月に旧室蘭駅舎隣に再移設。`石炭積み出し港室蘭`の象徴として新たに活用されています



カンチャンの製作風景



歴史を受け継ぎ、新館へ

平成27年のまちづくり協議会を経て、設計・整備を進めてきた新館にも、現在の両館から継承される面が多くあります。

たとえば図書館の蔵書類。総数約14万冊を4月から新館に引っ越します。中には大正期の蔵書印があるものもあり、これらは100年を超える図書館の歩みそのものといえます。また明治開拓期の古文書や絵図、小森忍さんの陶板作品、高橋昭五郎さんの屋外彫刻「はぐくみ」も新館に移設されます。

科学館でも、一部の室蘭ならではの展示は、新館に引き継ぎ、好評を得ている体験・対面型の取り組みは、新館でも展開します。

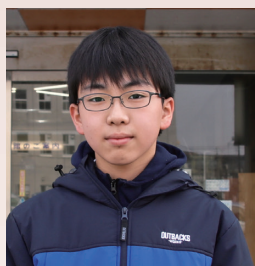
今月は現在の館を訪れる最後のチャンス。ぜひ今一度お越しください。

青少年科学館の思い出

小 学4年生からロボットサッカークラブに通っています。学校で配られた募集の案内でクラブのを知り、母に勧められて見学に行ったところ、楽しそうだと感じたので通うことにしました。

クラブの活動の中では発明工夫作品を作ることが特に好きで、想像したものを形にできたときはとても嬉しいです。作っていく途中でうまくいかないこともありますが、先生に助けをいただきながら作品を完成させています。クラブで一番印象に残っていることは、製作した発明工夫作品が北海道青少年科学館技術振興作品展の道知事賞に選ばれたことです。次はもっと良い作品を製作して、全国展を目指したいです。

新しい環境科学館は、クラブで使う部屋が広くなると聞きました。広くなった部屋でこれからもロボットサッカーや人の役に立つ作品を発明できるように頑張ります。



蘭北小学校 6年生 佐藤 弘志郎 さん

幼 稚園児の頃から家族で科学館に来館していて、小学生になると友人と歩いて通っていました。地震体験台とプラネタリウムがお気に入り、特にプラネタリウムは、季節に合わせた投影と神話などの解説が面白く、毎回楽しみにしていました。

その後、縁あって平成17年から科学館で勤務しています。小学生の頃によく通ってくれていた子どもやクラブで活動していた子どもが、大学生や社会人になってもイベントのボランティアやクラブに通う小学生に教えに来てくれることがとても嬉しいです。また、実験に使用する道具などを、市内のお店や企業から無償で提供していただくこともあり、市民の皆さんに支えられていると実感し、感謝の気持ちでいっぱいです。

3月もイベントを開催します。思い出が詰まった科学館を目に焼き付けていただきたいと思います。



青少年科学館 館長 楠原 晴子 さん

ザ・ラストイヤーイベント

両館は、感染症対策として、換気や手指消毒を行い、空間除菌システムを稼働しています。

青少年科学館

☎22-1058

入館料 大人 400 円、高校生 200 円、65 歳以上 250 円、市内居住の中学生以下は無料

プラネタリウム入場料 大人 200 円、高校生 100 円、65 歳以上 130 円、中学生以下 40 円

3月13日(土)・14日(日)

プラネタリウム操作体験

プラネタリウムを観覧した後に、星を動かしたり、星座の絵を出すなどの操作を体験してみませんか。科学館の入館料とプラネタリウム入場料がかかります。

対象 小中学生（保護者同伴可）

時間 11:00～12:00

15:00～16:00

（プラネタリウム観覧時間を含む。）
操作体験は1人10分程度

定員 各先着1組

（1組2人まで。兄弟姉妹に限る）

申込方法 3月9日から12日まで、電話で

（受付時間 10:15～16:30）

3月27日(土)・28日(日)

さよなら ありがとう 室蘭市青少年科学館ラストイベント

コースタープレゼント

科学館の中庭の木を使って製作されたコースターを、各日先着60人にプレゼントします。

科学館にさよならメッセージをかこう

館内の所定の場所に科学館へのメッセージを書きます。

FMびゅー公開放送(27日のみ)

時間 12:00～13:00

工作と実験

工作 (27日「ペットボトル空気砲」)
(28日「ストロー弓矢」)

時間 11:30、14:00

定員 各先着5人

実験 (27日「液体窒素実験」)
(28日「ドライアイス実験」)

時間 13:00

定員 各先着5組

対象 中学生以下

申込方法 当日 10:00 から整理券を配布

図書館本館

☎22-1658

図書館本館は、環境科学館・図書館への移転のため、4月1日(木)から新図書館開館までの間休館します。休館中のご利用については、広報むろらん4月号に掲載します。

3月2日(火)～30日(火) **本のリサイクル市**

図書館で不用になった本を1人1日10冊まで無料でお譲りします。

対象 市民

時間 10:00～18:00

会場 1階ロビー

用意する物 本を入れるための袋

3月2日(火)～30日(火) **図書館に絵を描こう♪**

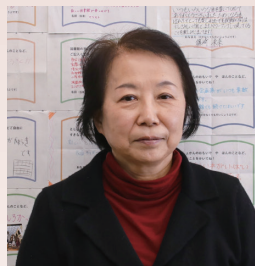
図書館の床や壁、ドア、窓などにチョークで自由に絵を描いてみませんか。

※黒板になっていないところ（書架やカウンター、本など）には描かないでください。

時間 10:00～18:00

会場 児童図書室内

図書館の思い出



図書館本館 職員
山下 春美 さん

昭和48年から勤務して、通算40年以上になります。図書館には子どもの頃から通っており、いつも身近な存在でした。勤め始めた頃は全てが手作業で、利用者も多かったことから、本の貸し出し業務だけで1日が終わるくらい、忙しかった記憶があります。

市民の寄付によって蔵書される「ふくろう文庫」の取り組みと、昭和初期の貴重な資料や蔵書が多

くあることが、本館の特徴です。これらの蔵書などは、新しい図書館に引き継ぐ予定です。

大きな地震があっても、本が落ちたり、本棚が倒れることのない本館ですが、2・3階の利用には、階段を使ってもらえないのが悩みの種でした。新しい図書館は全てが1階にあるため、年配の人も利用しやすくなると期待しています。また、環境科学館と一体となることで、連携したイベントなどを行えたらと考えています。



読み聞かせボランティア
上村 孝吉 さん

読書と子どもが大好きで、定年退職して1年後の平成18年6月から読み聞かせボランティアとして活動を始めました。本館では、月に1度の読み聞かせのほか、今は新型コロナウイルス感染症の影響で中止していますが、「赤ちゃんライブラリー」を行っています。

子どもが喜んだり、はしゃいだりしている姿を見ると、読み聞かせ

を続けていく活力になります。一番印象に残っていることは、生後7カ月くらいのときに「赤ちゃんライブラリー」に来てくれた赤ちゃんが、入園するときに私にあいさつしに来てくれたことです。とても嬉しかった思い出です。

12月に開館予定の環境科学館・図書館には、小さい子どもも楽しく読書できる施設になってほしいと願っています。私も体力が続く限り読み聞かせなどを通して、子どもたちの優しい心を育む活動を続けていきたいと思っています。